

事業計画書

1. 事業名称 「昔のあそびとわらべうた事業」

2. 実施主体

■ 団体名： 「昔のあそびと遊ぼう会」

■ 事業担当課： 「松戸市六実支所」

3. 取り組もうとする課題

核家庭化の影響からか親から子、子から孫へ遊びを教えられる人が少なくなってきています。また老人・青年・子供の世代にまたがりコミュニケーション手段がなく一緒に楽しめることが無くなってきています。

「昔の遊び・わらべうた・わらべうたあそび」を広めることにより、親と子、孫との共通の話題作りを提供できるようになり、地域の世代間交流ができるようになります。

さらに地域住民全体に輪を広げていくことにより地域の活性化に寄与できるものと確信します。

4. 事業内容及びスケジュール

日程	具体的な取り組み	実施体制、対象者、場所など
H23. 4	①地域イベント参加（桜まつり） （けん玉、コマ、カプラ、あやとり、お手玉他）	祭り来場者（地域住民他）、指導員 場所：桜通り一角、又は市民センター
H23. 5	② けん玉・カプラ講習会 （ケン玉・カプラ）	地域の住民（親子）、講師、指導員 場所：市民センター
H23. 7	③ けん玉・カプラ講習会 （ケン玉・カプラ）	地域の住民（親子）、講師、指導員 場所：市民センター
H23. 8	④ コマ講習会 （コマ、ちょんがけゴマ）	地域の住民（親子）、講師、指導員 場所：市民センター
H23. 10	⑤ 地域イベント参加（六実ツ子まつり） （けん玉、コマ、カプラ、あやとり、お手玉他）	地域の住民（主として子供）、指導員 場所：市民センター
H23. 12	⑥ コマ講習会 （コマ、ちょんがけゴマ）	地域の住民（親子）、講師、指導員 場所：市民センター
H24. 2	⑦ 昔のあそび・わらべうた・ わらべうたあそび大会	地域の住民（親子）、講師、指導員 場所：市民センター
H24. 3	⑧まつど市民活動サポートセンターによる見本市参加	見本市見学者、指導員 場所：まつど市民活動サポートセンター
H24. 3	⑨年度の反省と次年度計画決定	指導員代表、支所、協働推進課
H22. 4～ （毎月）	⑩定例会（毎月1回第2月曜日）	地域の住民、指導員 場所：市民センター

5. 事業に期待する成果

- ・「昔あそび・わらべうた・わらべうたあそび」大会の参加者 100名以上を目標とする。
(各世代が交流できる場ができ、より多くの人に参加できることを目指します。)
- ・効果を把握し、次年度の活動につなげるために、アンケート実施。
- ・指導員を増員する。 現在 17 人——> 20 名 (H24 年 3 月末まで)

6. 協働の意義

- ・地域住民の交流、活性化を図るためには、地域住民への広報や、地域の住民の交流場所を所管している六実支所と協働で行うことが必要です。
- ・当会だけの情報入手には限界があり、新規のイベント等の情報が得やすい。
- ・支所と協働で行うことにより、イベントに参加する場合の信頼度が増す。
- ・行政として草の根の地域情報が得やすくなる。
- ・イベントで入手した情報を支所への報告。

7. 事業実施の役割分担

■ 提案者の役割

- ・「昔あそび、わらべうた、わらべうたあそび」の技術の提供。
- ・同上の指導要員の提供。
- ・同上のイベント実施する際の企画・運営。

■ 担当課の役割

- ・支所で管理している公益の場所の提供・調整。
- ・広報等の掲載。
- ・支所管内のイベント情報の提供。

8. 将来の展開

住民同士が知合い、子供達も顔見知り、互いに挨拶を交わせる街にするため、子供たちから町で、「おはようございます」、「お手玉の先生だ」、「けんだま名人だ」、「わらべうたの先生だ」、コマ回し名人だ」とあいさつする町にしていきたい、また大人同士が顔見知りになり、歳をとっても自宅内に引籠らずにみんなが集ってあそべるものを作りあげたいと思っています。

そのためには、指導員の増員、PRも欠かせないと思っております。先ず六実支所管内での地域の活性化を図っていき、成果を確認しながら子供達を育て、指導員の育成を図り「わらべうた・わらべうたあそび」等古きよきものの伝承を図って行く。

事業の予算計画

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

	（自己資金）	金 額	積算内訳
	提案者	会費	61,200 円
寄付金		10,000 円	
参加費		10,000 円	JR代 200円×100人（④及び⑥）
自己資金合計（a）		81,200 円	
労力換算額計（b）		492,500 円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額（c）	253,800 円	
資金合計額（d）（a+c）		335,000 円	事業費（g）と同額

【負担金申請額（c）チェック項目】

1. 対象となる経費（e）欄の90%以内 253,800円 < 315,000円×0.9
2. 1事業あたり50万円以内 253,800円 < 50万円
3. 自己資金（a）欄に労力換算額（b）欄を加えた額以下であること。 OK

	項 目	金 額	積 算 内 訳
負担金の交付対象経費	報償費（講師代）	80,000 円	4回分 (②、③、④、⑥の4回)
	印刷製本費（広報チラシ印刷）	90,000 円	9000部(注1)×10円/部
	材料費（カプラ）	130,000 円	10箱×13,000円
	保険料（行事保険）	15,000 円	300人（注2）×50円
	対象となる経費合計額（e）	315,000 円	
その他経費	指導員飲食費	10,000 円	
	指導員交通費	10,000 円	
	その他経費合計額（f）	20,000 円	
事業費(g)（e+f）		335,000 円	収入合計額（d）と同額

（注1） 9000部の内訳 ①:2000部、②、③、④、⑥:各500部、⑤:2000部、⑦:3000部

（注2） 300人内訳 ②、③、④、⑥:各50人、⑦:100人

労力換算計算書

(単位：円)

	項 目	換算額	積算内訳
	活動計画	/	人数×時間×回数×500円
労力換算額	1. 地域イベントでの指導員工数 (さくらまつり (①))	45,000 円	15 人×6H×1 回×500 円
	2. ケン玉・カブラ講習会指導員工数 (②、③、④、⑥)	90,000 円	15 人×3H×4 回×500 円
	3. 地域イベント参加指導員工数六実っ子まつり (⑤)	52,500 円	15 人×7H×1 回×500 円
	4. 昔のあそび・わらべうた・わらべうたあそび大会指導員工数 (⑦)	52,500 円	15 人×7H×1 回×500 円
	5. 大会アンケート集計・分析工数 (⑦)	5,000 円	2 人×5H×1 回×500 円
	6. 見本市指導員工数 (⑧)	52,500 円	15 人×7H×1 回×500 円
	7. イベント企画、チラシ原稿作成工数 (①～③)	6,000 円	3 人×4H×1 回×500 円
	8. 反省・計画作成工数 (⑨)	9,000 円	3 人×6H×1 回×500 円
	9. 定例会指導員工数 (⑩)	180,000 円	10 人×3H×12 回×500 円
	合計 (b)	492,500 円	